

平成 24 年度

事業所名 : グループホーム すまいる2号館

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200103		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームすまいる2号館		
所在地	〒027-0096 岩手県宮古市崎鍬ヶ崎第9地割39番地70		
自己評価作成日	平成24年9月25日	評価結果市町村受理日	平成25年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0390200103-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成24年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく、穏やかに日々を送る為に、私たちができるとは？を常に考えながら、楽しい会話、笑顔で接する事を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

すまいる2号館は、新興住宅の地域に立地して8年目を迎える中で、徐々に地域の理解と支援を得ながら、「利用者個人その人らしさを大切にした介護」等を掲げる基本理念の実現に向けて、常に「笑顔で接し、楽しく会話をする」という姿勢を共有しながら実践している。また、職員相互のコミュニケーションを深め、チームワークを大切に一体となって利用者支援に取り組んでいる強い姿勢が窺われる。特に毎月の業務会議やカンファレンスには、職員全員の参加を基本とする中で、日常支援の中から新たな発見やサービス提供改善について意見交換や提言が述べられており、これらは一人ひとり利用者のサービスの向上に繋がり、ホームの運営改善に活かされている。更に管理者は職員個々に悩みや業務の振り返り等について話し合う機会を設ける取り組みが行われており職員の表情も明るい。なお、調査当日の一日のホーム内は、職員との会話も多く、明るく和やかな雰囲気が漂い、利用者の笑顔で明るい表情からは穏やかで安心した生活ぶりがうかがわれた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム すまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホール内に掲示し各自確認。カンファレンスや個人面談を通して意識の統一に努めている。	理念に即した支援の実践を図るため、全職員参加による毎月の業務会議やカンファレンス、職員個人毎の面談時の機会を設けるなどして、全職員コミュニケーションを深め共通認識に立つケア実践に努めている。	全職員のコミュニケーションと共通認識に立った支援実践が結果的に利用者の日常生活に安定をもたらす、家族の感謝に繋がっており引き続きの良質なケア実践に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、散歩、回覧板での挨拶、顔を知ってもらえるよう努めている。	日常的な散歩時の挨拶交わしや地域の清掃活動への参加のほか、町内会婦人部や中学生の来訪交流、地区の法人施設合同の運動会でのボランティアとの交流など、地域との積極的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運動会、避難訓練で地域の方々にボランティアとして参加して頂き交流の場としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。ホーム状況報告し、地域の情報、家族の立場から意見を伺い、ホーム内活動の参考にしている。	メンバーは、利用者・家族・地域住民・市の4人で、ホームの活動状況等の報告を中心に進められ、意見を頂くよう配慮しながら運営している。具体的な提案として、「ソーラー式の避難誘導灯の設置」があり、防災対策に活かしている。	今後はさらにテーマの設定や多様な方々の意見等を聞く機会を設ける工夫をすることによって、一層のサービス向上に繋がるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のご案内を直接手渡し、顔を知ってもらう機会を作っている。	行政とは運営推進会議の折や広報誌を直接持参しながらホームの運営状況等を伝え理解してもらうよう努めている。また市とは相談、照会にも適切な指導・助言を受けるなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内勉強会において、認知症の理解、スピーチロックについての理解に努めている。	法人系列内の4ヶ所のグループホームによる身体拘束廃止にかかる委員会に参加し理解を深めるほか、「言葉による拘束」をホーム内で勉強会を行い、お互いのケアを振り返り改善を図るなど、精神面・身体面で拘束のないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加、伝講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加、伝講している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度も改正があり、変更箇所の説明をし理解して頂いた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、お便りに意見欄を設けている。又、面会時にも話しやすい雰囲気作りにも努めている。	利用者とは日々の会話の中から、また家族とは面会時や運営推進会議の際に、話しやすい雰囲気づくりに配慮しながら、気軽に要望や意見等を述べてもらえるよう努めている。特に毎月、生活の様子を伝えている「お便り」で気付いた点の意見などをお願いしている。	今後は、さらに利用者・家族の潜在的な意見や要望が引き出されるよう意向把握の方法を工夫され、サービスの向上に反映させて行くことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務会議、申し送りノートにより業務確認、見直し改善をしている。	毎月の業務会議等でケア面や仕事の進め方、業務体制等について気付いた点を活発に意見や提案が出され(玄関下駄箱のカーテン設置など)、サービスの向上や運営改善に活かされ職員の意欲的な姿勢がうかがわれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	日々のコミュニケーション作り、個人目標達成の為、面談を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講演等の情報を提供し、できるだけ参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック内での合同行事、交換研修を行う予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との会話、声かけを通じて聞き取り、職員全員で話し合い、統一した対応で安心した生活ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族状況を理解し、ホームとして出来る限り協力していく旨説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族と話し合い、職員、他部署とも相談しながら支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることの維持継続、できない事の支援で統一したケアに努め、感謝の声かけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況報告や面会を通じて、共に支えていくよう声かけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の病院受診、町内会行事参加等で顔見知りの方との再会の場となっている。	家族の協力で馴染みの美容院に出かけたり、地域のひな祭りに参加したりして馴染みの方と会える工夫をしている。また、孫に手紙を書き近くのポストに投函するなど、家族等の協力を得ながらできるだけ馴染み関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の空気を察し、職員がフォローに入るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その人らしさ」を念頭におき、ケアプランを作成。ご本人、家族、職員から情報を収集し、ご本人の希望、意向の把握に努めている。	利用者との日々の会話のほか、センター方式のシートに家族から記入してもらった本人情報を職員で共有し、必要に応じてカンファレンス等で話し合いながら本人の思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、センター方式の用紙を家族に渡し、分かる範囲内で記入して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、家族からの情報をもとに、日課の様子観察、申し送りで見意見交換し共通理解に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス、毎月の評価、3カ月ごとの見直しを行なっている。又、家族へも説明、意見を伺っている。	介護計画は、利用者・家族の希望をベースとして、全職員参加のカンファレンスで意見を出し合い作成している。計画の見直しは3ヶ月毎に行っているが、その際、1人ひとりその人らしく生きる力ができるだけ持続するようにとの思いを共有しながら取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をご本人の言葉、行動、それに対してのケアとに分け、その場の様子が分かりやすいよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他部署と相談、連携しながら対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの地域の公民館行事に継続して参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続して受診している。病状等に応じ、家族の協力も得ながら支援している。	医療受診は入居前のかかりつけ医を継続して受診している。通院支援は家族対応を基本としており、難しい場合は職員が対応している。医師とも必要な情報の提供等信頼関係を築きながら利用者を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護来設、体調不良、急変時の訪問及び相談が行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は付き添い、状況報告及びサマリー提出。お見舞い時、入院後の経過説明をうけ退院後のケアにいかしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご本人、家族の意向を伺いホームとしてできること、及び住み替え等説明している。	重度化及び終末期に関する指針は作成されているが、重度化はホームとして支援できる範囲や他施設紹介などを説明し理解を得ているほか、終末期支援については、今後の課題としている。	重度化や終末期への支援期待は、今後一層高まることから、体制整備を含め職員間で話し合い学習を積み、また関連施設の連携などを検討しながら取り組まれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員より救命訓練、訪問看護師による勉強会、年3回開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、地域の方5名と緊急時協力体制ができている。	消防訓練は消防署と連携しながら、夜間想定避難訓練等を年2回実施している。災害に備えて地域の方5名を地域協力隊としてお願いしている他、近隣に立地する系列の介護老人保健施設やグループホームと併せて緊急通報システムを整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	上からの目線的な言葉がけにならないよう、又、失禁時は周囲に気づかれないような配慮を心かけている。	利用者の名前の呼び方や失禁時の言葉のかけ方、入室時のノック等、個々人に関わる事項については最も注意し、利用者の誇りやプライバシーを傷つけないよう職員間で確認し合いながら取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会での希望の献立を聞いたり、飲み物は温かいもの、冷たいもの等選んで頂けるようにしている。一人ひとりとの笑顔での会話により、想いを引き出せるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に日課はあってないようなもの、との認識で臨機応変に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理、美容はご本人、家族の希望に沿って対応。外出時は服を選んでもらう等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりたたみ、配膳、盛り付け等、出来る作業を共同で行なっている。献立はリクエストを聞いたり、好き嫌いのある方へ代替食提供を行なっている。	食事は、スタッフと一緒に料理の出来具合や、味加減等を話し合いながら美味しそうに食べている。食事はそれぞれ利用者の自分のペースでゆっくり食べ、利用者が食べ終えるまで見守っている。なお、食事後は利用者は自分の役割として率先して後片付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	瀬戸物では重くて持てない方への対応、水分を摂りたがらない方には、せりー等少しでも食べて頂けるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声がけ、誘導、仕上げ磨きを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを把握し声がけ誘導。自力でトイレ使用の方で清潔が不十分な方の失禁確認を行なっている。	1人ひとりの排泄パターンに応じた支援をしてきたが、現在はトイレ誘導なしの利用者がほとんどである。なお支援の必要な利用者には本人にさりげなくついていったり、トイレでは羞恥心や不安を覚えられないよう配慮しながら自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便ができるよう、食物繊維、水分をとれるよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おき、午後からの入浴。入りたがらない方には時間をかけ、気に入る話題で気分を盛り上げてから誘導するなど工夫している。	入浴は1日おきに午後1時から4～5人利用している。リラックスできる入浴とするため、入浴中は歌をうたったり、職員と楽しく会話したりしてゆったりとくつろいで過ごせるよう支援している。車椅子の利用者にはシャワー浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の気分、状態に応じ休息、就寝対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は確認しやすいところにある。変更時は申し送りノートに記載し、伝達がスムーズにいくようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の中で役割を持って生活。体調、気分を見ながら無理のないよう声がけしている。音楽を聴いたりゲームをしたり、散歩に出かけたり気分転換の機会を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム近くのお店に本人希望で出かけている。家族同行の通院後に外食してくるなど、家族の協力も得られている。	ひと頃に比べ外に出たがらなくなったとするも、日常的にホーム周辺の散歩等に心がけているほか、手紙の投函や買物のため近くの出かけたり、時々ドライブで楽しんでいる。花見や紅葉狩り、くり拾いのほか、時には外食にも出かけ楽しい時間を過ごすよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、家族の希望でご本人が所持し、近くのお店で買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話を掛けたり手紙を自らポストに出しに行く等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの壁に月ごとに季節を感じれるような飾りつけをしている。天窓からの日差しが厳しいことから布をはるなど工夫している。	ホール(居間)は天窓から自然光が射して明るく、小上がりの畳敷きの回りにテーブル、ソファ、長椅子が程よく配置され、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう工夫されている。壁には切り絵や書、写真などが張られ思い出作りの雰囲気、心地よさが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳間で横になったり、廊下の椅子で隣室の方と談話する場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、小物を持ち込んで頂き、ご本人が使いやすいよう備品を配置している。	居室にはベッド、クローゼットのほか、洗面所も設置され便利である。室内には使い慣れたタンスや馴染みの置物、テレビなどが置かれ、壁には家族写真などが飾られているなど、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間、安心して排泄できるようポータブルトイレを設置。ナースコールが手に届くよう工夫、常夜灯も常設の他、増設し転倒防止に努めている。		